

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



ちよう
彫

きん
金

くろ かわ たけ お
黒川武雄
(号 伊藤 正弘)

(昭和60年度作品)
16mm映画・ビデオ
カラー・17分

プロフィール

住所、荒川区東日暮里4-4-4。

明治38年(1905)、東京都生まれ。

昭和58年度、荒川区指定無形文化財保持者。

大正9年(1920)、15歳のとき、江戸幕府御用彫金師を勤めた伊藤家16世・伊藤正見氏に入門、修業を重ねて、大正15年に独立する。

伊藤家は、元来、刀の鐔や小柄などを彫る彫金師であった。黒川さんは、その技術を受け継ぎながら、花びん、飾り箱、額面、水滴、香盒など、注文により作っている。

「ほとんどの仕事っていうのは、50年、100年先のことをみこんでやる」と語る黒川さん。日本伝統工芸展が「帝展」といわれた頃、数回も入選しており、日本伝統工芸会正会員の有資格者でもある。

企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

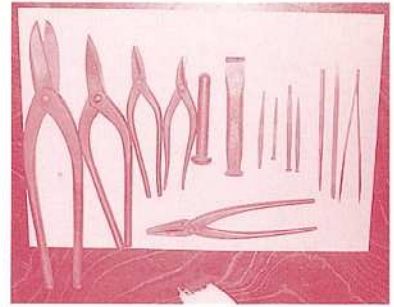
用具・工具

たがね(数百種類)、きりばし、きさげ、へら、金槌、やっこ、松やに、毛書き棒。

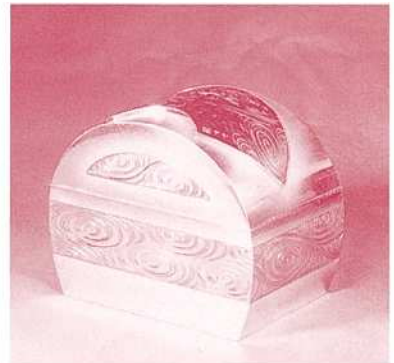
金、銀、銅、真ちゅう、合金(四分一銀)。

工程——銀の額皿「翁面」の場合——

- ① 翁の図案を描く。
- ② 毛打ち——たがねで絵の輪郭をていねいになぞっていく。
- ③ 裏打ち——額皿の裏を打ち出す。この打ち出しの技法が最も基本的なものとされる。
何種類ものたがねを使い、刻んでいく。
- ④ 毛書き——毛書き棒で毛書く。
- ⑤ 上彫り——裏打ちがすむと、表の金属面をたがねを使って刻んでいく。
- ⑥ なめくり彫り——翁の面に、上からたがねを打ちながら溝線を作っていく。これを、なめくり彫りといい、目の部分にも使う。
- ⑦ 中啓を彫る——中啓(扇子)の部分彫って模様をつける。
- ⑧ 仕上げ——彫りの仕上げと、金けしなど仕上げ師にゆだね、仕上げる。



彫金の工具



かもん飾管
渦文飾管



銀の額皿

利用される方は ☎ 3891-4349

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。
貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。